

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4071000345
法人名	社会福祉法人 福岡ひかり福祉会
事業所名	グループホーム宅老所よりあい
所在地	福岡県福岡市中央区地行1-15-14 (電話) 092-761-4260

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 10月 15日
評価確定日	H21年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 9年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	5 人
職員数	9 人
常勤	7人
非常勤	2人
常勤換算	5.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造2階 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	7,000 円
	または1日当たり	1,100 円		

### (4) 利用者の概要 (平成21年9月1日現在)

利用者人数	3名	男性	1名	女性	2名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	81歳	最高	85歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿部医院
---------	------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要幹線道路から道路一つ奥まった都心の住宅街でありながら、どこか懐かしさを抱かせる静かな街並みの中に佇んだ民家改造型の事業所である。事業所内の中庭は、外気浴が楽しめるようにウッドデッキに造り替えられ、併設する通所介護からも自由に行き来できるように床続きになっている。地域住民、学生、近隣福祉事業所等で、困りごと等を地域で支援する「ご近所応援隊」を結成し、地域社会で誰もが安心して暮らし続けられるよう取り組んでいる。事業所は、通所介護を中心に、利用者及び家族の状態・状況によって事業所を利用していく仕組みとし、利用者及び家族との信頼関係が時間をかけて築かれている。事業所運営については、家族の意見や要望だけでなく協力が不可欠となっており、その一例として、全利用者が自宅か親族宅で週一回程度外泊または外出して過ごす機会をつくる支援を行っている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自ら改善課題として「運営推進会議の開催」「災害時の対策」の項目を挙げ、改善計画を立てて具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	全職員がそれぞれ自己評価をし、ミーティングで意見を集約している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議を定期的に開催し、現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告している。看取り介護をされた家族の話や制度改正に伴う事業所の運営等について話し合いながら、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)	年4回実施の家族会及び運営推進会議等で、家族等の意見や要望等を聴取している。意見箱を設置し、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	
重点項目④		自治会活動やボランティア及び近隣住民の見学等を受け入れている。近隣の福祉事業所や商店主、地域住民、学生等でご近所応援隊を組織し、宿泊ボランティアをはじめ、地域住民等の困りごとの応援を依頼している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活を家族とともに地域の中で支援していくことを理念に掲げ、地域密着型の視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護記録に地域との関わりの項目を設け、その視点を持つように工夫している。終礼や月2回のミーティング等で、理念の実践について職員間の意識統一が図られるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動やボランティア及び近隣住民の見学等を受け入れている。近隣の福祉事業所や商店主、地域住民、学生等でご近所応援隊を組織し、宿泊ボランティアをはじめ、地域住民等の困りごとの応援を依頼している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がそれぞれ自己評価をし、ミーティングで意見を集約している。前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自ら改善課題として「運営推進会議の開催」「災害時の対策」の項目を挙げ、改善計画を立てて具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告している。看取り介護をされた家族の話や制度改正に伴う事業所の運営等について話し合いながら、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が行政へ頻繁に出向き、事業所のあり方等、行政との意見交換を密に行い、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度に関して、職員は内・外部研修で学ぶ機会がある。パンフレット・研修記録・報告書等がある。家族等には、管理者が入居時及び必要に応じて説明している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所は定期的に利用者が外泊または外出できるよう支援し、その際に家族等へ暮らしぶりや健康状態を報告している。また、緊急時等は、電話で状況報告している。金銭の預かりは行っていない。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年4回実施の家族会及び運営推進会議等で、家族等の意見や要望等を聴取している。意見箱を設置し、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>労働条件等を整備し、離職を必要最小限に抑える努力をしている。隣接する通所介護間との異動があるが、利用者と職員は日常的に交流があり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用は、性別や年齢に関係なく採用している。また、内・外部研修等、職員が等しく受けられるように工夫している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員で人権に関する内・外部研修を行っている。研修記録・報告書・テキストがある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に学ぶ機会を設け、全職員が内・外部研修に参加出来るよう体制を整えている。また、ミーティング時等で意見を出しやすい環境を作り、記録の仕方等、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の福祉事業所や学生、商店主等が参加してご近所応援隊を組織し、管理者及び職員が参加して月1回、研修を実施している。その中で困りごと相談、ネットワークづくりや外出傾向のある利用者検索の協力、地域での祭り開催等の活動を行っている。また、他の同業者ネットワークに加入している。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>隣接の通所介護利用者の状態及び家族等の状況から利用者を継続して受け入れている。本人は職員や他利用者と顔なじみの関係がある。利用開始時は、自宅訪問や病院訪問を行い、本人や病院関係者と相談しながらサービスを開始している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の表情や言動から「喜び」「楽しみ」等の時間を共感する関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の表情や行動等から思いや意向の把握に努めている。独自の記録様式を使用して本人の意向や希望を全職員で共有し、支援方針に確実に反映させている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望等及び職員の気づきや意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。介護計画の同意欄に、本人、家族の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の終礼や月2回のミーティングで、支援方針の確認と現状の総合的な把握を行っている。毎週・毎月具体的にモニタリングを行い、状況変化に合わせて随時介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密に連携をとり、健康管理を行っている。利用者が入院した際には定期的に病院訪問を行い、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。本人や家族の状況に応じて、通院等は個別に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関での受診だけでなく、事業所で協力医療機関を確保し、利用者及び家族があらゆる選択肢を可能にできるように支援している。受診時の情報は家族に伝えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の方針があり、家族に説明している。「いつ、どこで、誰と、どう最期を迎えるか」家族と共に考え、具体的な情報提供や調整を行っている。家族、主治医、全職員で話し合い、方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮し、個々の尊厳を大切に声かけや対応をしている。職員は、ミーティングや研修で個人の尊厳・プライバシー保護について常に話し合い、対応を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にして、利用者本位の生活ができるよう取り組んでいる。買い物や外出等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで食べ、利用者とは話しつつ声かけや介助を行っている。天気に応じてテラスで食事をしたり、利用者と職員が献立を相談して決める等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるよう準備し、利用者の体調や希望にあわせて柔軟に支援している。現在、入浴拒否する利用者はいない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、踊り・長唄・お茶入れ・ドライブ等、楽しみごとも含めて一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせて、散歩、買い物、ドライブ、自宅訪問や家族の見舞い等を行っている。また、利用者が家族と共に外出できるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、見守りを行っている。事業所の働きかけによって近隣や商店街が一体となって見守りネットワークを形成し、声かけや連絡をしてもらえる体制が整っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署へ協力依頼をし、地域住民の参加協力を得て避難訓練を実施している。非常用食料・飲料水・備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。利用者の嗜好を取り入れたバランスの良い献立となるよう工夫し、定期的に栄養士がチェックしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家の暖かみあふれた居心地のよいくつろげる空間である。籐椅子を職員が改造して移動式にする等、利用者が長時間座っていても心地よい工夫を凝らしている。テラスは木々の緑や草花で彩られ、小鳥のさえずりが聞こえる。音や光の調整は随時行い、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や小物を持ち込み、思い出の品や写真、人形等が飾られている。利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※      は、重点項目。